

The logo for IRS, consisting of the letters 'iRS' in a white, sans-serif font on a blue square background.

偉大な返還



アゼルバイジャン共和国外務大臣

ジェイフン・バイラムフ

紛争後の時代の現実： 失われた機会の回復について



「コーカサスのヒロシマ」と呼ばれている、アルメニア占領後廃墟と化したアグダム市



今年はアゼルバイジャン共和国の独立30周年にあたります。アゼルバイジャンはこの30年間、隣国アルメニアとの2つの戦争、独立した初期の政治的失敗と機会損失、国家指導者ヘイダル・アリエフのリーダーシップの下で実施された先見の明のある政策に基づく迅速な回復と急速な経済発展を経験してきました。また偉大な勝利は、最高司令官でもあるイルハム・アリエフ大統領のリーダーシップの下で、アゼルバイジャンの国境内での領土の回復をも経験してきました。

外交政策の成功の結果として、今日のアゼルバイジャンは経済発展の点で南コーカサスの主要国となり、アルメニアの侵略と約30年間に及ぶ領土の占領がなければ、さらに成功していたことでしょう。

独立当初から、アゼルバイジャン共和国は隣国からの武力侵略の犠牲となり、その結果、ナゴルノ・カラバフ地域と隣接する7つの地区を含むアゼルバイジャンの国際的に認められた領土が占領され、その地域のアゼルバイジャン人の住民はすべて家から追放されました。

国際機関は、アゼルバイジャン国内のすべての占領地域からのアルメニア占領軍の完全かつ無条件の撤退を要求し、領土保全、主権および侵略禁止を含む国際法の規範と原則に基づいた紛争解決を要求する多数の文書を採用しました。この立場は、国連安全保障理事会と国連総会、非同盟運動と OSCE、イスラム協力機構、欧州評議会によって可決された決議と決定に明確に反映されました。

アゼルバイジャンは、アルメニアが現実を認識し、国際法の規範と原則、国際機関の決議と決定に従って、国際的に認められたアゼルバイジャンの領土を撤退するという希望を持って、約30年間交渉プロセスに取り組んできました。アゼルバイジャンは衝突の激化を避けようとし、国際社会が真実の声に耳を傾けることを望んでいました。

その間、アルメニアは、アゼルバイジャンの領土との併合を目指して、アゼルバイジャン領土を結果として統合するための一貫した措置を講じながら、交渉を遅らせていました。これには、とりわけ占領地への移民の定住、歴史のおよび文化的遺産の破壊と略奪、天然資

イルハム・アリエフ大統領はフィズリ国際空港の基礎に象徴的なカプセルを下す



源の不法な搾取、占領した土地での私有財産および公共財産の略奪が含まれます。アルメニアは、アゼルバイジャンの民間人だけでなく、何年にもわたる占領を通じてその文化遺産やインフラに対して、一連の重大な犯罪を行ってきました。

政治的解決へのアゼルバイジャンの関与にもかかわらず、国際的な決定を実施するためのメカニズムの欠如、破壊的な立場、そしてアルメニアによる明らかに挑発的で攻撃的な行動の最近のデモンストレーションが、結果として国際社会におけるアゼルバイジャンの領土保全を、国際的に認識された境界が必然的であるとして、軍事的にも回復をもたらしました。

9月27日のアルメニアによる新たな挑発に応じて、アゼルバイジャン共和国軍最高司令官イルハム・アリエフ大統領の命令により、反撃作戦が開始されました。44日間の愛国心戦争の結果、アゼルバイジャンは国連安全保障理事会の4つの決議を実施しました。またアゼルバイジャンのすべての占領地域からのアルメニア占領軍の完全、即時かつ無条件の撤退と、国際法の規範と原則に基づい

た紛争の解決を要求する国連総会、イスラム協力機構、OSCE、非同盟運動、トルコ評議会、NATO、GUAM、欧州議会、その他の国際機関の求める決議を実施しました。このように、民間人を保護し、国の領土保全を確保するために、国際法に従ってアゼルバイジャンの軍隊によって実行された反撃作戦は、長引く紛争を解決することを可能にしました。

2020年11月10日、アゼルバイジャン、アルメニア、そしてより広いコーカサス地域の歴史に新しい時代が開かれました。アゼルバイジャン、アルメニア、ロシアの指導者が署名した三国間声明により、アルメニアとアゼルバイジャンの間の約30年にわたる武力紛争に終止符が打たれたのです。

この声明の実施により、すべての軍事活動の停止と、占領されたアグダム、カルバジャール、ラチン地区のアゼルバイジャンへの返還が保証されました。この声明には、国連難民高等弁務官事務所の監督下での国内避難民と難民の帰還に関する重要な規定が含まれています。

この協定はまた、この地域のすべての経済的および輸送的なつながりに対する障害

最初の、返還されたカラバフで道路を建設する



物の除去を想定しており、アゼルバイジャン本土とそのナヒチェヴァン自治共和国との間の交通を含む、アルメニアとアゼルバイジャン間の両方向における人、車両、貨物の安全な移動を保証しています。

この合意により、この地域に新しい現実が生まれ、新しい協力の枠組みが形成されます。この合意を実現するためのロシア連邦とトルコ共和国のそれぞれの貢献は、特に重要となってきます。これらの近隣諸国は、この合意の保証人として重要な役割を果たしており、その履行は南コーカサスの長年の平和と安定をもたらすでしょう。

解放されたアゼルバイジャンの領土の平和と安全を確保するために、ロシアとトルコは共同監視センターを設立し、11月10日の三国間声明に基づくアルメニアとアゼルバイジャンによる合意の実施を監視しています。

アゼルバイジャンは、紛争の影響を受けた地域に住むアルメニア出身の市民を、政治的、社会的、経済的空間としても再統合し、民族的または信仰心にも関係なく、アゼルバイジャンのすべての市民が行使するのと同じ権利と自由を保証することを決意しています。アゼルバイジャン共和国憲法は、この点で確固たる法的枠組みを定めています。

アゼルバイジャンの主権と領土保全の範囲内で、互いの安全、民族のおよび宗教的アイデンティティの尊重に基づく、紛争の影響を受けた地域のアゼルバイジャンとアルメニアの居住者の平和的共存は、最終的に保証されなければなりません。

私たちは、紛争後の新たな段階、再建と復興の段階、平和的共存の回復の段階に入りました。開発と協力の新しい機運が生まれています。私たちはすでにパートナーと協力して、新たな有望な現実を活用する取り組みを開始しています。

アゼルバイジャンは、2020年11月10日と2021年1月11日の三者間声明の文言と精神の完全な履行と、アルメニアとアゼルバイジャンの国家間関係の正常化に基づいて、戦争の傷跡を癒すことを非常に重視します。

国連が率いる国際社会は、この地域における良好な隣国関係の回復を約束する三国間声明の実現を支援する上で、重要な役割を果たすと私たちは確信しています。

平和で繁栄して安定した未来は、共同の決意、国家の主権と領土保全の尊重、国際的に認められた国境の不可侵に関する国際的義務の完全な遵守によってのみ達成することができるのだらう。✿